

第3回

高校生から学ぶ ふくしまの今とこれから

福島県では、復興に向けた取り組みの一つとして、高校生を中心とする次世代層によって、郷土の伝統を守りつつ地域の未来に向けた活動が行われています。

今年で3回目になりますが、私たち「ふくしまの食相談センター」では、福島と東京のそれぞれの学校での活動を紹介し、交流するつどいを開催します。

「高校生から見た福島の今」を知ること、福島をより身近に感じ、復興の現状とこれからについて意見を交わす場にしたいと思います。



イベントスケジュール

9:30 受付開始
(参加校オリエンテーション)

10:00 ~ 12:00
高校生学習発表会

12:00 ~ 13:00 休憩

ポスターを展示中です。
ご自由にご覧ください。

13:00 ~ 14:45
意見交換会

14:45 ~ 16:00
ポスターセッション

お問い合わせ

2025年 3月15日 (土)
10時00分~16時00分

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 501号室



< 定 員 > 150名

< 参加費 > 無料

< 参加申し込み方法 >

①お名前、②ご所属、③連絡先（メールアドレス または 電話番号）を明記の上、右記に申込みください。

< 申込期限 > 2025年3月1日



fukushima@zenso.or.jp

主催：ふくしまの食相談センター
(公益社団法人 全国消費生活相談員協会内)

電話：0120-660-926
(受付時間：火・水・木・土・日の10時~16時)

FAX：03-3527-3118
メール：fukushima@zenso.or.jp

担当：尾嶋、澤木
本事業企画担当：永田、坂田、南澤

学習発表校・参加校のご紹介

学習発表校

福島県立安積高等学校

郡山市にある創立140年の県内屈指の伝統校。
2024年度にはSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の第Ⅲ期指定を受けるとともに、2025年度からは併設中学校が開校し、公立中高一貫の進学拠点校としてさらなる飛躍を目指している。
昨年度まで9年間実施された国際高校生放射線防護ワークショップを主催するなど、福島県内外海外高校を巻き込んで震災原発事故後の福島の課題への探究活動にも積極的に取り組んできた。2022年度は処理水問題、2023年度は除染による除去土壌再生利用問題を取り上げ、福島復興の観点からの発信を続けている。

福島県立磐城桜が丘高等学校

浜通り南部のいわき市にある創立120年の伝統校。
総合的な探究の時間を中心に、探究学習に取り組み、地域企業等からの協力を得て実践的な学びを行っている。
昨年度は、科学部がALPS処理水や除去土壌問題についての考察を発表するとともに、家庭クラブが地産地消や風評被害払拭の架け橋として活動する「櫛葉町さつまいもプロジェクト」について報告。地元企業と共同開発した試食品を提供。

福島県立相馬農業高等学校

浜通り北部の南相馬市にある創立121年の農業高等学校。
農業の魅力を発信する活動の推進や、福島イノベーション人材育成実践事業の成果を生かした探究活動を通して、将来の地域社会に貢献できる人材を育成する農業科の専門高校。昨年度は、CO₂削減などの地球環境改善の活動と、「地域に元気を発信」を合言葉にした郷土芸能や料理の継承についての活動を発表。

福島県立橘高等学校

福島市にある創立127年の伝統校。条例改正により、2003年に福島女子高等学校を橘高等学校と改称し男女共学化。校訓の「自主・自律・自立」の精神を備え、社会に貢献できる人材の育成に向けて「橘探究ゼミ」などの教育活動に力を入れている。昨年度は、「高校生による挑戦の機会の創出」をテーマに、高校生主催のイベントの企画や福島を知るための地域活動への参加について提案。

東京都立戸山高等学校

東京都新宿区にある創立135年の伝統校。
2023年8月に開催された国際高校生放射線防護ワークショップに参加するなど、SSH（第Ⅳ期）としてスクールミッションの「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」を目指している。昨年度は、除去土壌問題の認知度をあげる方法について、高校生と大人を対象に実施したアンケートの分析結果から「正しい理解のために、正しい情報が重要」と提言。

New

福島県立福島高等学校

福島市にある創立126年の伝統校。学校の伝統である「自由」の精神とのびやかでおおらかな校風のもと、自ら主体的に学ぶ習慣を身につけ、高い知性、豊かな人間性、自らと社会を変える変革マインドをもって社会を創造する人間育成を目指している。SSH事業（第Ⅳ期）を軸に解のない課題に取り組む探究的な学びを実践。「放射線班」は、「除去土壌の減容化」に関する研究を継続的に実施し、毎年学会等で発表している。

New

お茶の水女子大学附属高等学校

東京都文京区にある1882年創立の日本最初の高等女学校。
基礎・基本を重視し、自主・自立の精神を備えて広い視野を持って他者と協働する生徒の育成を教育目標としている。
SSH第Ⅱ期の指定を受け、科学的な素養や卓越した探究力を備えて他者と未来を共創する女性リーダーの育成をめざす。

帝京大学 医療技術学部 大谷浩樹研究室

環境放射線や放射能に対して不安を感じる現状について、人々の心理変化に関するナラティブ分析を行い不安を分類することで、不安低減にアプローチするなど、放射線リスクコミュニケーションにおける心理的な解析と感情認識などをテーマに取り組んでいる。

ポスターセッション 意見交換参加校

慶應義塾大学 経済学部 橋口勝利研究会

「現代日本の地域活性化への調査と歴史的研究」をテーマに、日本各地の地域への現地調査・研究を行い、その課題や解決策を模索します。東日本大震災以来、学生たちは、福島県で現地調査を実施し、住民帰還や除染、廃炉、新たな産業振興やまちづくりの問題を考えています。そしてその調査結果をもとにして、自治体や企業の方を交えてのディスカッションを行い、卒業論文の作成を目指します。

New

獨協大学 経済学部 米山昌幸ゼミナール

「SDGs実践と持続可能な社会の創造」をテーマに活動。内閣府主催「地方創生☆政策アイデアコンテスト2024」では田村市を対象とした提案を、環境省主催「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』チャレンジ・アワード2024」では大熊町を対象とした提案を、最終審査会で発表。
獨協大学では、福島県の抱える問題を通して、日本社会、世界を俯瞰した課題解決に取り組む講演・討論会「フクシマの未来を考える」を開催。福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」や福島イノベーション・コースト構想推進機構「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に参画し、多くの学生が福島県に入り活動している。